

2021年10月期第2四半期 決算説明会

2021年6月25日

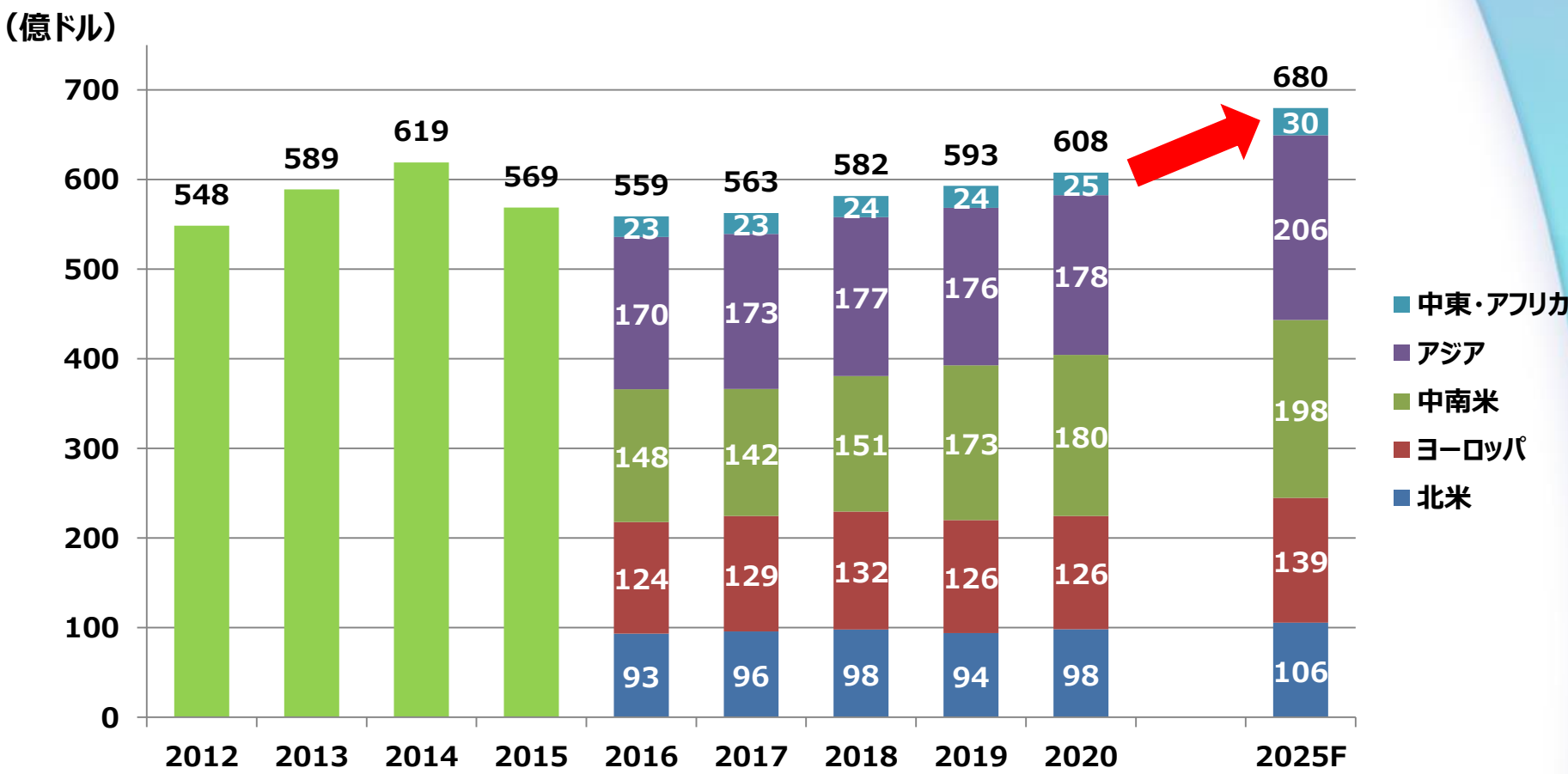
 **クミアイ化学工業株式会社**

本日のアジェンダ

- I. 事業環境
- II. 2021年10月期 第2四半期実績
- III. 2021年10月期 業績予想
- IV. 重点施策の実施状況
- V. 質疑応答

農薬市場の動向

✓ 世界市場は2016年を境に回復基調、2025年には680億ドルまで拡大と予測
 ✓ 国内は3,300億円前後の横ばいで推移



出典 : Agbioinvestor

事業環境トピック

✓ 持続可能性と環境に配慮した政策が世界的なトレンドとなっており、各国で食料生産やカーボンニュートラルに焦点を当てた政策を策定

米国 

「農業イノベーションアジェンダ」(2020年2月)

2050年までに農業生産量の40%増加、環境フットプリントの半減、など

EU 

「Farm to Fork戦略」(2020年5月)

2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%削減、有機農業を25%に拡大、など

✓ 日本でも「みどりの食料システム戦略」を策定(2021年5月)

「みどりの食料システム戦略」 

生産から消費までサプライチェーンの各段階において、新たな技術体系の確立と更なるイノベーションの創造により、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を実現する

当社の方針

農薬は農業生産の効率化や省力化に大きく寄与しており、
今後も生産性向上と持続性の両立に必要な生産資材

- ・ 環境保全型の農薬など、よりリスクが少なく高性能な新農薬の開発
- ・ 産業イノベーションに資する生産技術・資材の開発

I. 事業環境

II. **2021年10月期 第2四半期実績**

III. 2021年10月期 業績予想

IV. 重点施策の実施状況

V. 質疑応答

2021年10月期 第2四半期実績

(億円)	2020 2Q実績	2021 2Q実績	前年比	2021.2Q 当初予想 ^{*2}	当初予想比	要因
売上高	584	588	+4	570	+18	<ul style="list-style-type: none"> ・国内農薬事業の増収 (+) ・一部化成品事業のコロナ禍影響からの回復遅れ (-)
営業利益	50	48	-2	37	+11	<ul style="list-style-type: none"> ・増収に伴う利益増 (+) ・国内農薬事業の自社剤比率上昇 (+) ・原価低減・販管費削減 (+) ・アクシーブ関税負担増 (-) ・調達価格増 (-)
経常利益	55	65	+10	43	+22	<ul style="list-style-type: none"> ・為替差益 (+)
当期純利益 ^{*1}	38	47	+9	29	+18	-

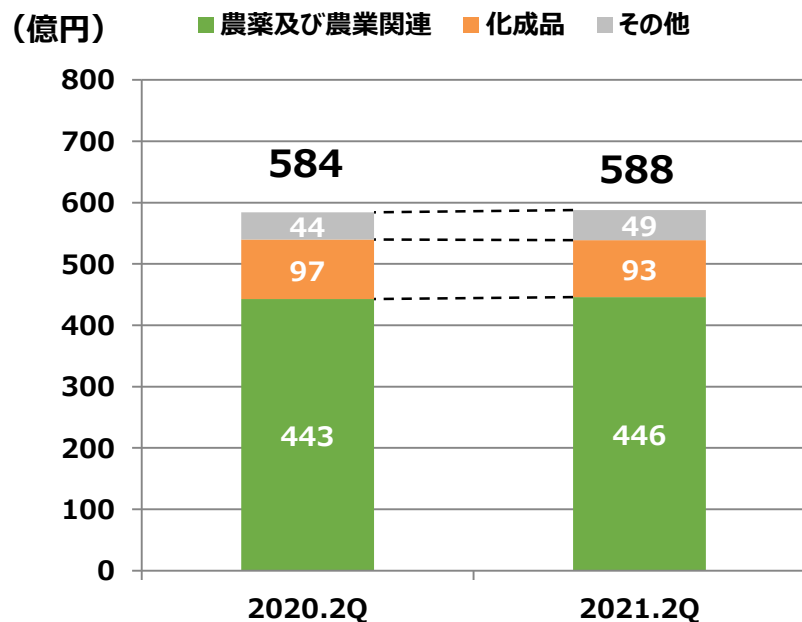
*1親会社株主に帰属する当期純利益

*22021年6月8日に業績予想修正を開示

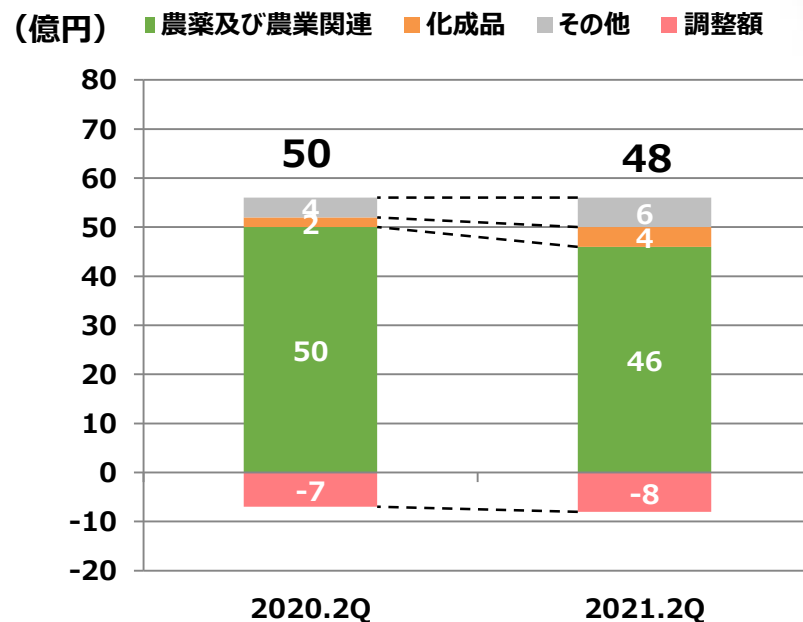
セグメント別売上高及び営業利益

- ✓ 農薬事業は国内でディザルタが販売開始、エフィーダも大きく伸長
- ✓ 化成品事業は新型コロナの影響が続き減収

連結売上高



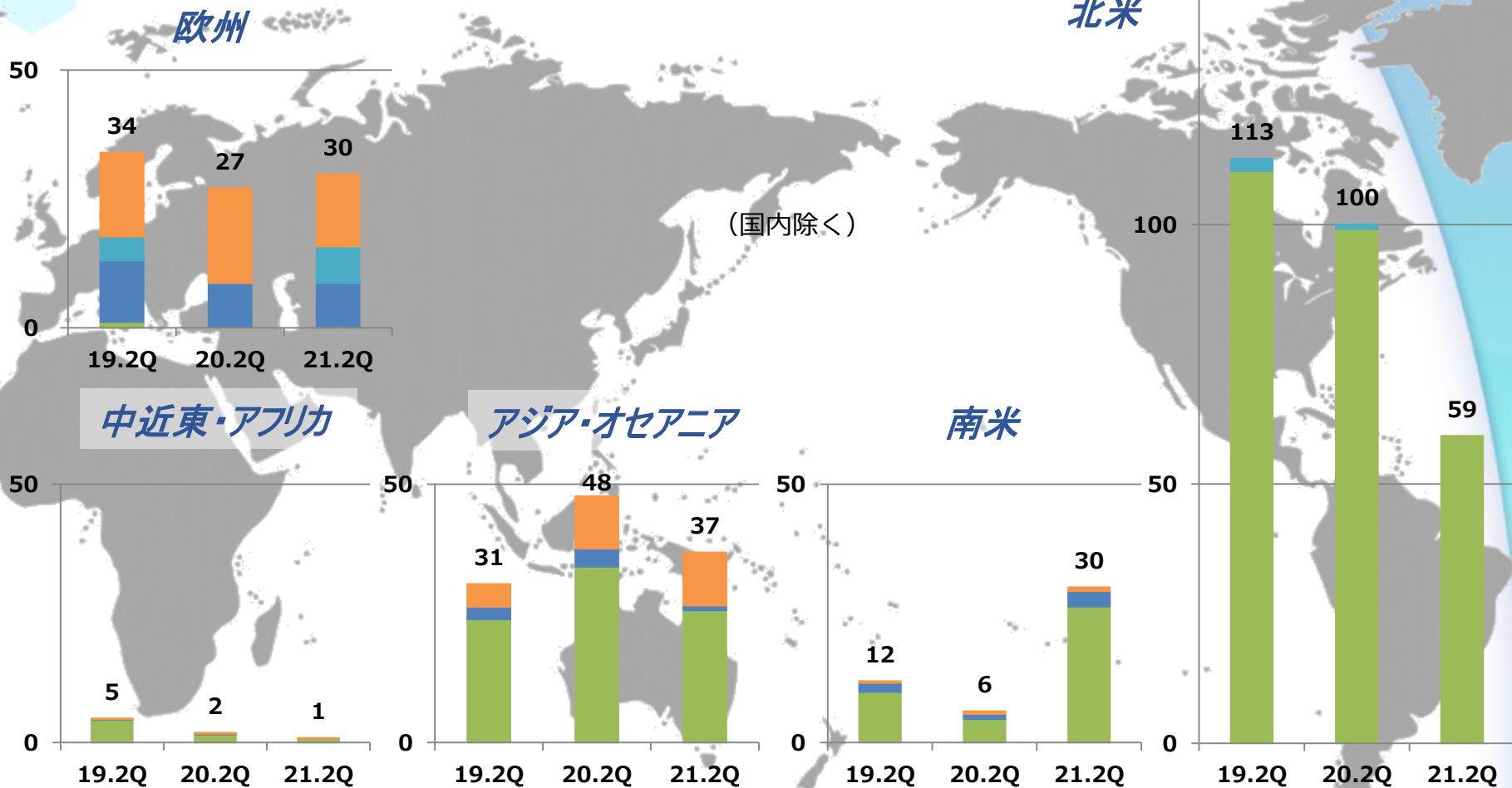
連結営業利益



	売上増減	利益増減
農薬及び農業関連	+3億円	-4億円
化成品	-4億円	+2億円
その他	+5億円	+1億円

海外地域別・用途別売上高 (農薬及び農業関連)

(億円)



■ 除草剤
 ■ 殺菌剤
 ■ 植物成長調整剤
 ■ その他

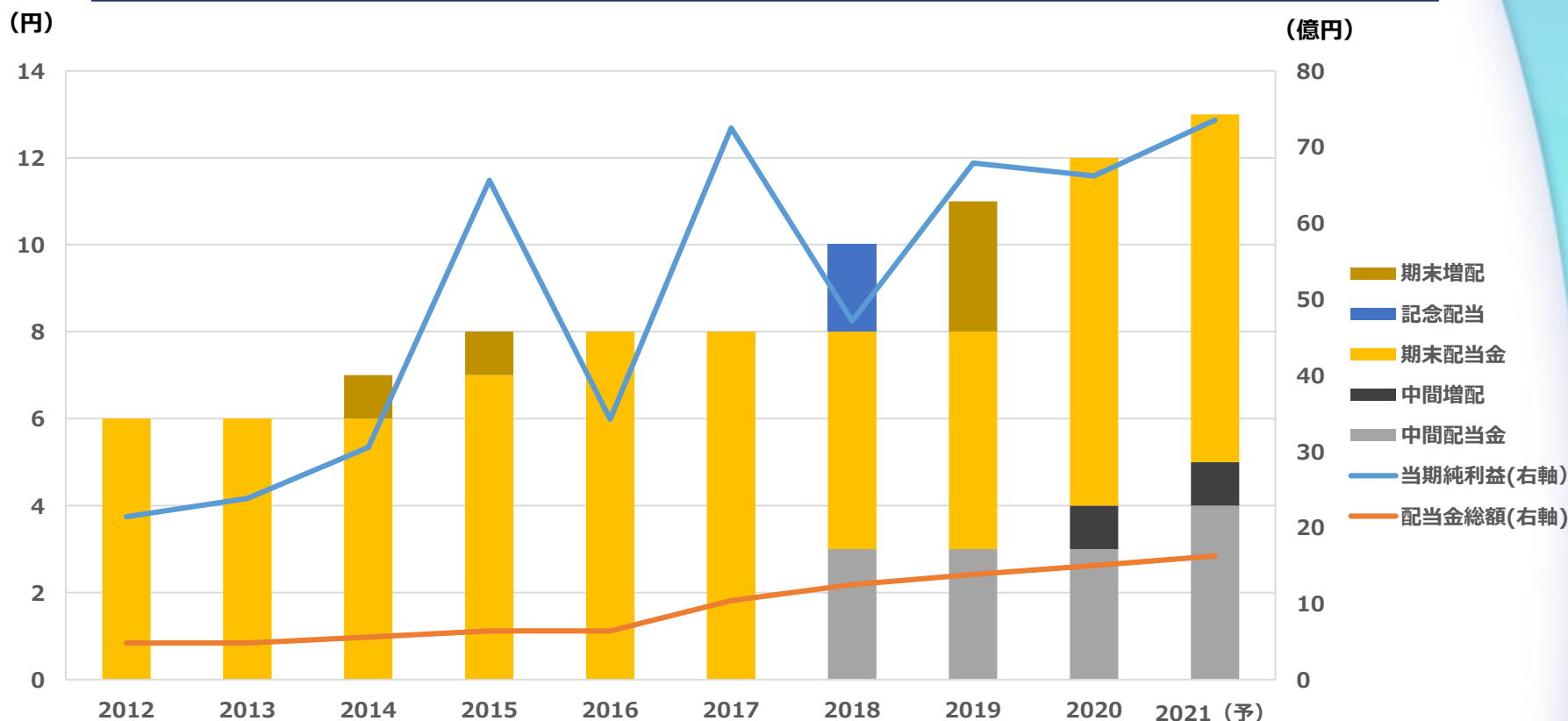
総売上高	446億円
海外売上高	157億円
海外売上比率	35%

株主還元施策

配当基本方針

収益動向を踏まえた株主の皆様への還元及び企業体質の強化と将来の事業展開に備えるための内部留保などを総合的に判断しつつ、安定した配当を継続して行う

- ✓ 中間配当は、業績を総合的に判断し、従来予想に対して1円増配となる5円を実施
- ✓ 期末配当は8円を予定しており、年間配当は13円の予定



株主還元施策

▶ 自己株式取得

- ✓ 資本効率の改善および株主還元の一環として1株当たりの利益の増大を図る
- ✓ 経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行する

取得の内容	
取得する株式の種類	当社普通株式
取得する株式の総数	5,000,000株（上限）
取得価格の総額見込み	5,500百万円（上限）
取得期間	2021年3月15日～2022年3月14日

2021年4月末時点の自己株式の保有状況

発行済株式数（自己株式を除く）	125,101,734株
自己株式数	8,081,878株

- I. 事業環境
- II. 2021年10月期 第2四半期実績
- III. 2021年10月期 業績予想**
- IV. 重点施策の実施状況
- V. 質疑応答

2021年10月期 連結業績予想 (対前年)

	2020 実績	2021 修正予想*2	増減	増減要因
売上高	1,073	1,134	+61	—
農薬及び農業関連	794	832	+38	海外：アクシーブ増収、AAI社（+） 国内：エフィーダ、箱処理剤増収（+）
化成品	189	214	+25	・コロナ禍からの回復（+）
営業利益	83	83	+0	・自社剤比率の上昇、原価低減（+） ・調達価格上昇による原価高（-） ・販管費、減価償却費の増加（-） ・アクシーブ関税税率変更によるコスト増（-）
経常利益	99	106	+7	・為替差益（+）
当期純利益*1	66	74	+8	—

*1親会社株主に帰属する当期純利益

*22021年6月8日に業績予想修正を開示

2021年10月期 連結業績予想 (対当初予算)

	2021 当初予想	2021 修正予想*2	増減	増減要因
売上高	1,130	1,134	+4	—
農薬及び農業関連	814	832	+18	<ul style="list-style-type: none"> ・国内農薬における箱処理剤の増収 (+) ・AAI社の連結子会社化 (+)
化成品	226	214	-12	<ul style="list-style-type: none"> ・塩素化事業におけるコロナ禍からの回復遅れ (-)
営業利益	73	83	+10	<ul style="list-style-type: none"> ・自社剤比率の上昇 (+) ・原価低減、販管費抑制 (+) ・運賃等の増加 (-)
経常利益	92	106	+14	<ul style="list-style-type: none"> ・為替差益 (+)
当期純利益*1	62	74	+12	—

*1親会社株主に帰属する当期純利益

*22021年6月8日に業績予想修正を開示

2021年10月期 進捗及び事業計画

農薬及び農業関連事業

売上高 794億円（2020） → 832億円（2021） +38億円	
アクシーブ (+11億円)	地域ごとに進捗のずれがあるものの2Q実績は計画線上で推移 年間の出荷計画に変更なし
ノミニー (-7億円)	インドにおけるコロナ禍影響で進捗が遅延、通期計画にも影響
エフィーダ (+12億円)	計画通り進捗し大幅増収 水稲一発処理除草剤シェアNo.1の奪還を目指す
ディザルタ (+18億円)*	ディザルタを含めた水稲用箱処理剤が大幅増 年間計画に対して大幅な上振れを見込む

※箱処理剤全体として

2021年10月期 進捗及び事業計画

化成品事業

売上高 189億円（2020） → 214億円（2021） +25億円

塩素化

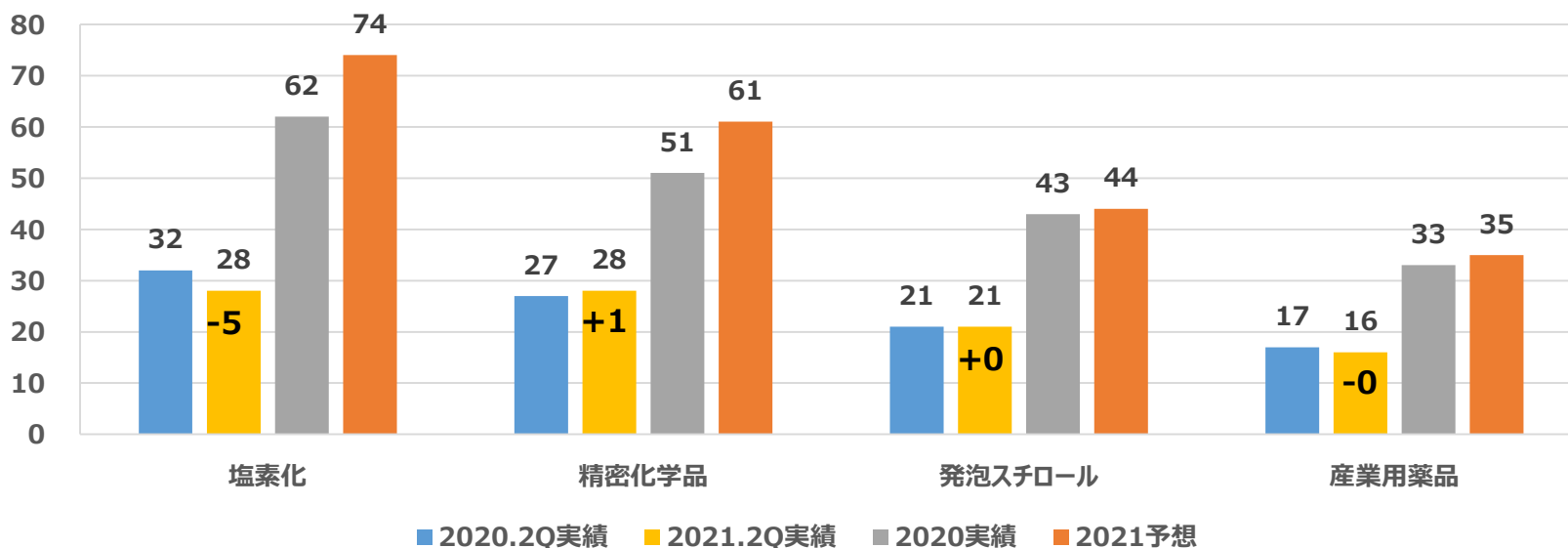
当初予想に比べコロナ禍からの回復に遅れ
 下半期には回復を見込むが、一部コロナ禍影響が残る

精密化学品

半導体需要の高まりを受けビスマレイミド類が好調に推移

小セグメント別売上高推移

(億円)

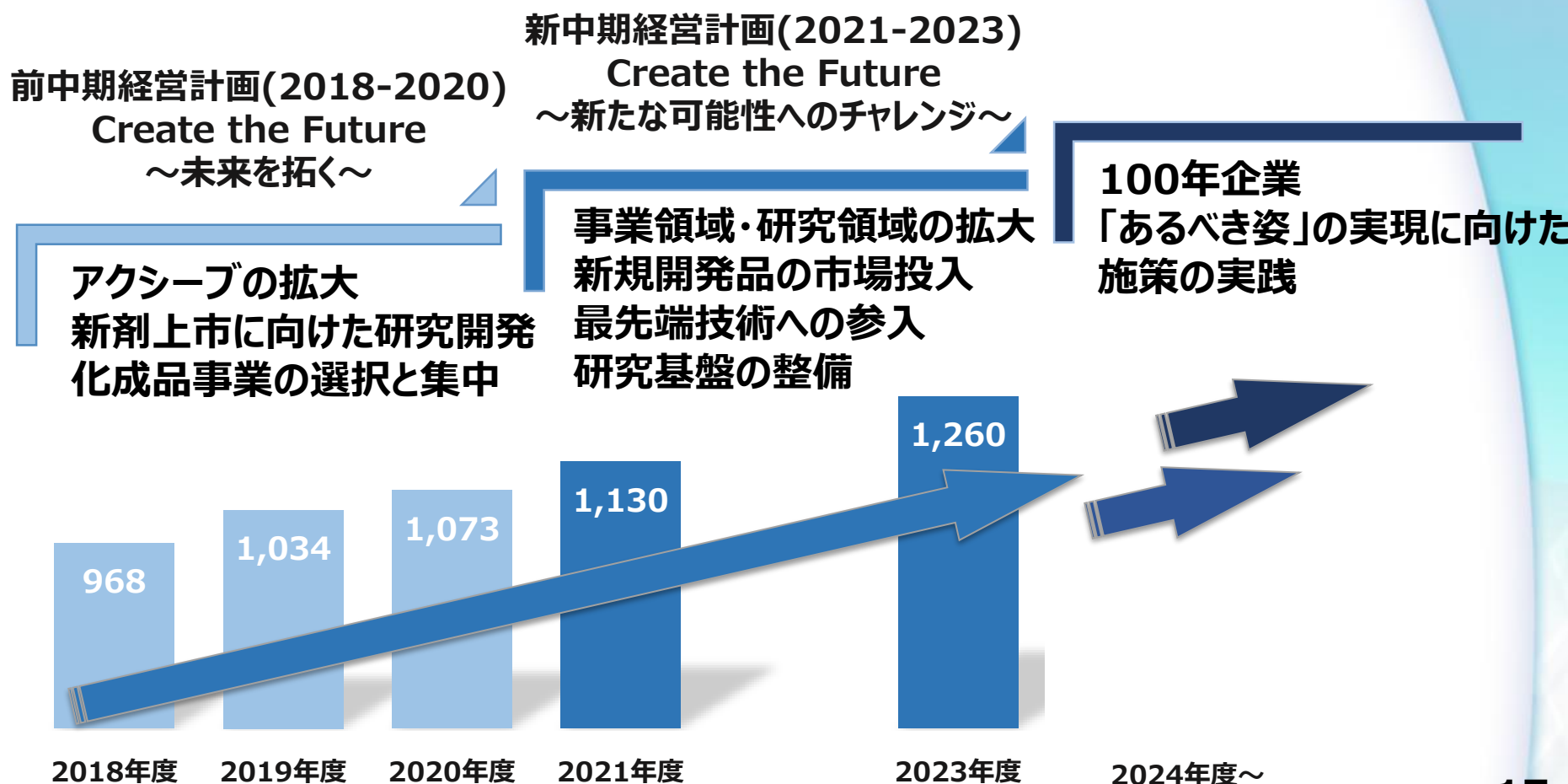


- I. 事業環境
- II. 2021年10月期 第2四半期実績
- III. 2021年10月期 業績予想
- IV. 重点施策の実施状況**
- V. 質疑応答

中期経営計画 (2021~2023) 概要

クミアイ化学グループの「あるべき姿」

独自技術で豊かなくらしを支え、自然と調和した社会の持続的発展に貢献する
 フレキシブルで存在感のある企業グループ





重要方針・重点施策

重要方針	重点施策
<p>研究領域、事業領域の拡大</p> <p>2 削減をゼロに 9 産業と技術革新の基盤をつくらう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう </p>	<p>革新的な技術開発による研究領域の拡大 新規事業の開拓、新技術の導入による事業領域の拡大 成長戦略の推進による既存事業の拡大</p>
<p>販売ルートが多様性確保</p> <p>2 削減をゼロに 9 産業と技術革新の基盤をつくらう 12 つくる責任 つかう責任 15 陸の豊かさも守ろう </p>	<p>海外での販売ルートが多様化 新規アイテム・受託テーマの創出による新規販売チャネルの開拓</p>
<p>コスト競争力の確保</p> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくらう 12 つくる責任 つかう責任 15 陸の豊かさも守ろう </p>	<p>製品原価低減に向けた生産体制、調達の最適化 生産技術の改善、生産プロセスの自動化による生産性・品質向上とコスト削減</p>
<p>ESGを重視した企業活動</p> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくらう 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう </p>	<p>環境負荷の低減を図った製品の開発、生産体制の構築 会社情報の積極的な発信 グループコンプライアンス体制の強化と推進 内部統制システムの的確な整備、運用 ステークホルダーへの農薬の必要性・安全性に関する啓発活動の立案と実践</p>

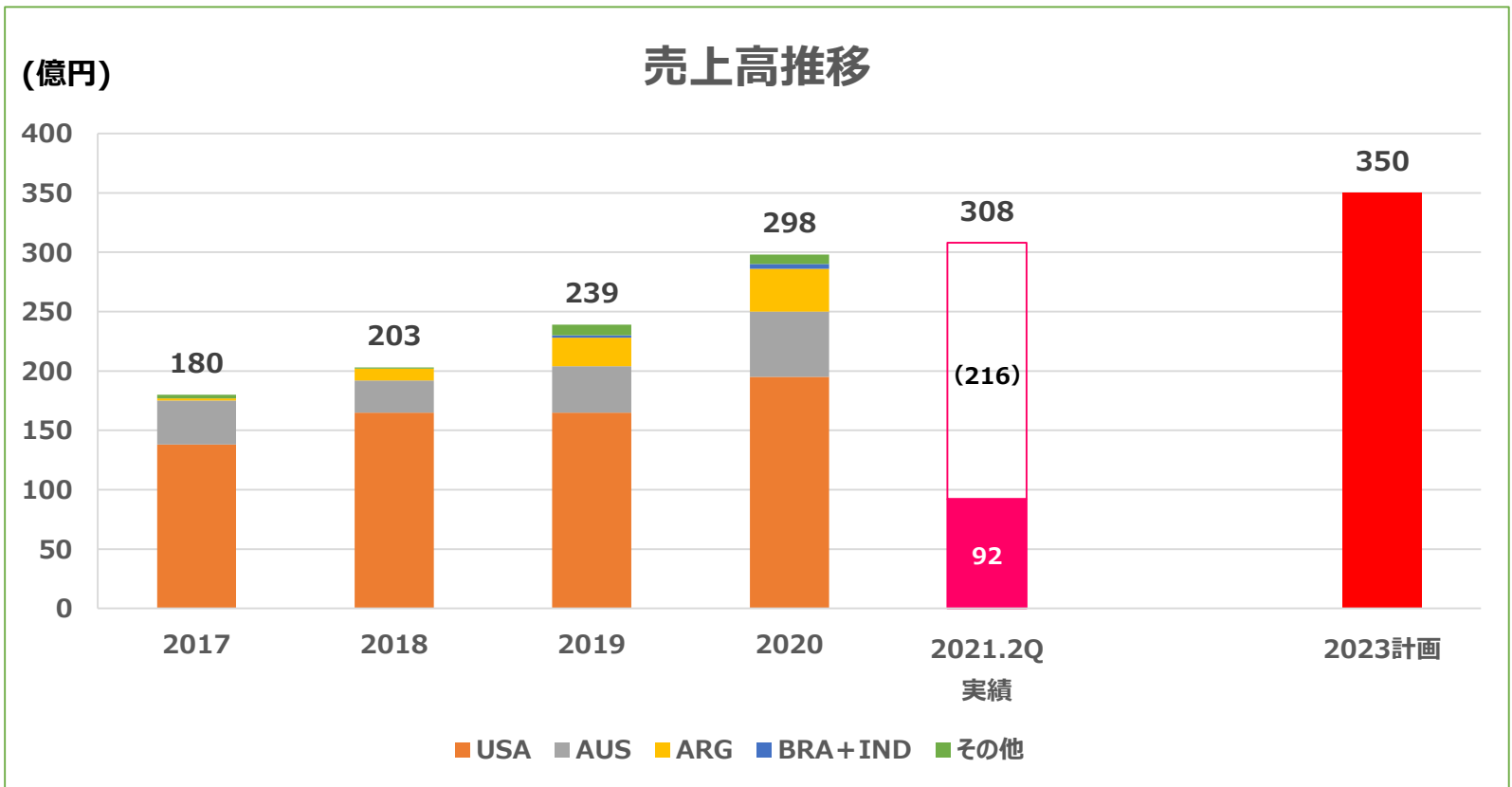
重点施策の実施状況（既存事業の拡大）

▶ アクシーブ（畑作用除草剤）

2 削減をゼロに 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	12 つくも責任 つかう責任 	15 陸の豊かさも守ろう 
---	--	---	---

✓ オーストラリア向けで出荷時期に変更があったものの、アルゼンチン、ブラジル向けが前傾して推移

✓ 全体として計画通りの進捗、期末計画に変更なし





重点施策の実施状況（既存事業の拡大）

▶ エフィーダ（水稲用除草剤）

- ✓ 計画通り大幅増収を達成、通期計画に向けて順調に推移
- ✓ 水稲一発処理除草剤分野でシェアNo.1の奪回
- ✓ 欧州での原体登録を申請（2021年3月）



▶ ディザルタ（水稲用殺菌剤）

- ✓ 昨年登録を取得、本年より有効成分として含有する3製品の販売を開始
- ✓ ディザルタを含む水稲箱処理剤（殺虫・殺菌剤）が計画を大幅に上振れ
- ✓ ディザルタを含有する新規混合剤の登録を取得し、製品ラインナップを拡充
来シーズンからの販売開始を予定



重点施策の実施状況 (研究領域、事業領域の拡大)

▶ 研究領域の拡大、事業領域の拡大



✓ 持続可能な社会の実現に資する技術・製品の開発

✓ 「みどりの食料システム戦略」にも対応した研究成果の蓄積を活用

▶ 先進的な農業生産資材の開発
新世代の化学農薬、微生物農薬
バイオスティミュラント

▶ バイオテクノロジーの応用
遺伝子組み換え技術の活用
ゲノム編集技術の活用

▶ 温室効果ガス低減技術の開発
農地からのメタン生成を抑制する資材

社会課題の解決を見据えた取り組みにより研究領域・事業領域の拡大を図り、
独自技術で創製した技術・製品の提供を通じ持続可能な社会の実現に貢献する

重点施策の実施状況 (研究領域、事業領域の拡大)

▶ 新技術・新製品の開発に向けた取り組み



先進的な農業生産資材の開発 (微生物農薬・バイオスティミュラント)

Rhizobium vitis ARK-1株 (特許取得済・2024年上市予定)

*Bacillus*属菌 (特許取得済・開発予定)

*Lysinibacillus*属菌 (国際特許出願済)

バイオテクノロジーの応用

糸状菌改変による抗生物質の生産性向上研究を活用した医農薬製造技術

ゲノム編集技術を応用した環境ストレス及び病害虫耐性作物の作出

温室効果ガス低減技術の開発

農地から発生するメタンガスの抑制技術 (国際特許出願済)

重点施策の実施状況 (販売ルートの多様性確保)



▶ M&A等による販売ネットワークの強化、製品開発の促進

✓ 2月1日にAsiatic Agricultural Industries社の株式60%を取得

対象会社の概要

会社名	Asiatic Agricultural Industries Pte Ltd
本社及び工場	150 Gul Circle, Singapore
創業	1972年
代表者	Chan Chek Chee (Chairman)
主な事業内容	農薬製造及び販売、農薬企業向けのOEM
資本金	1.2百万シンガポールドル
従業員	70名

想定されるシナジー効果

販売ネットワークの強化・補完

現地に密着した市場情報・ニーズの把握に基づく製品開発促進

開発剤の性能評価場面での協力

製剤の相互受委託



「販売ルートの多様性確保」

重点施策の実施状況 (既存事業の拡大、コスト競争力の確保)

▶ 成長戦略の推進による既存事業の拡大



✓イハラニッケイタイランド第2プラント稼働開始

✓アラミド繊維原料2種の生産能力拡充（各4,000 t /年）が完了

第1プラント（2018年9月～）



IPC（イソフタル酸クロリド）プラント
▶ 防護衣料、難燃剤など向け

第2プラント（2021年4月～）



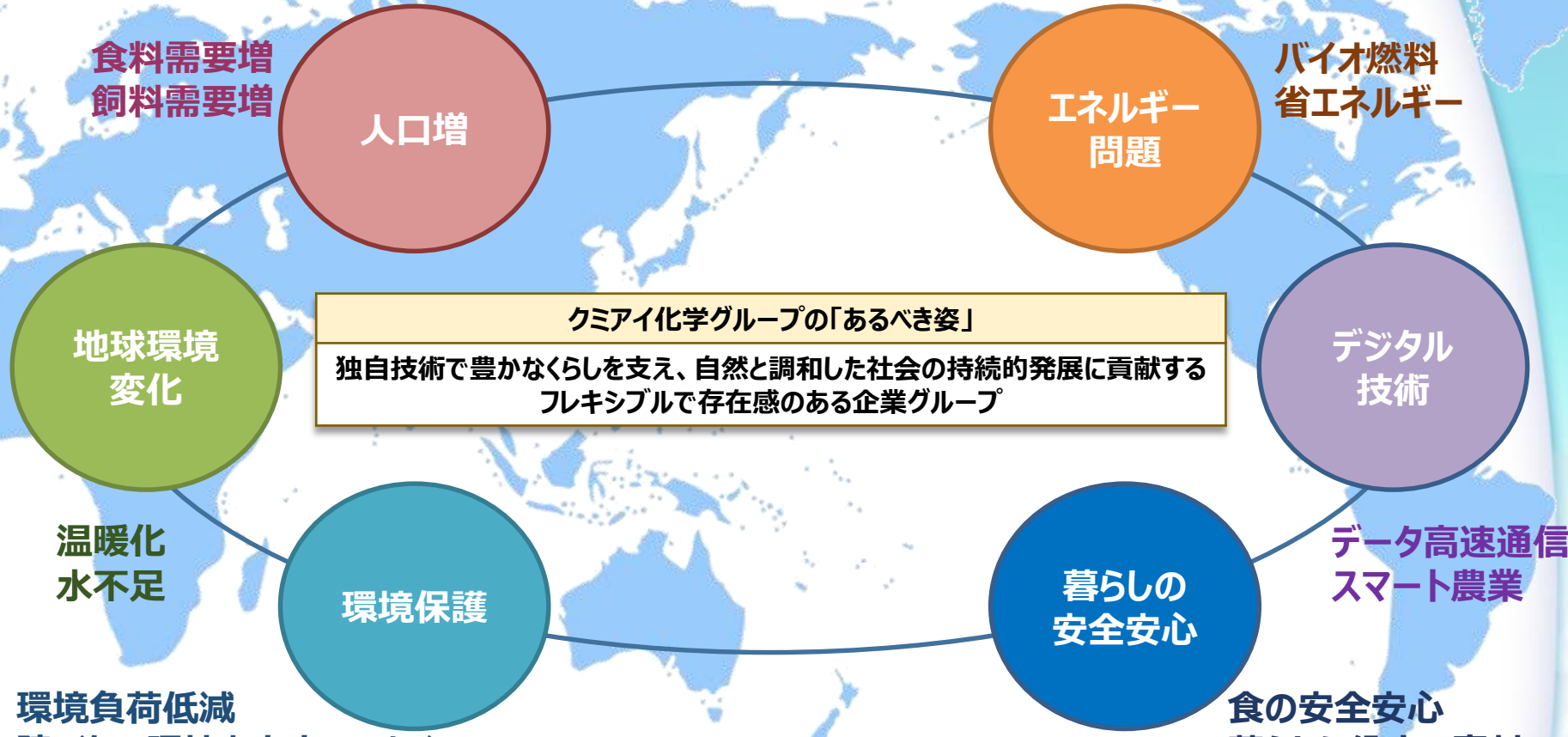
TPC（テレフタル酸クロリド）プラント
▶ 防弾チョッキ、光ファイバー保護樹脂・ゴム強化剤など向け



SDGs、ESGへの取り組み

企業理念

私たちは創造する科学を通じて「いのちと自然を守り育てる」ことをメインテーマとし、安全・安心で豊かな社会の実現に貢献します



クミアイ化学グループの「あるべき姿」
独自技術で豊かなくらしを支え、自然と調和した社会の持続的発展に貢献する
フレキシブルで存在感のある企業グループ

人口増

食料需要増
飼料需要増

エネルギー
問題

バイオ燃料
省エネルギー

デジタル
技術

データ高速通信
スマート農業

暮らしの
安全安心

食の安全安心
暮らしに役立つ素材

環境保護

温暖化
水不足

地球環境
変化

環境負荷低減
陸、海の世界を未来へつなぐ

サステナビリティ経営に向けて

▶ 「持続的な社会の実現」、「企業としての発展・成長」に向けた取り組み

✓ ESG経営に係る方針、具体策及び情報発信の在り方等を検討するための
 全社に亘る専門チームを立ち上げ、本格的な取り組みを開始

E 環境負荷の低減を図った製品開発、生産体制の構築

✓ 持続可能な社会の実現に貢献する製品・技術の開発
 新世代の化学農薬、微生物農薬、バイオスティミュラントの創出
 スマート農業への取り組み
 メタン生成抑制技術の活用による環境保全資材の開発



S 会社情報の積極的な発信

ステークホルダーへの農薬の必要性・安全性に関する啓発活動

✓ ホームページ、会社説明会及び株主通信等での情報発信を拡充
 ✓ 「産官学による里地・里山再生プロジェクト」への参画

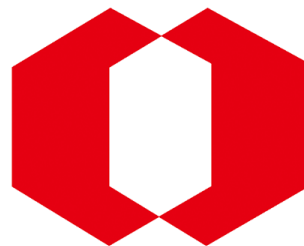


G ガバナンス体制の強化

✓ 新たなガバナンス体制への移行（1月28日付）
 執行役員制度の拡充、取締役に係る変更を実施

ご清聴ありがとうございました。

自然に学び 自然を守る



WMI

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手された情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<お問い合わせ先>

クミアイ化学工業株式会社

経営管理本部 総務人事部 広報・IR課

TEL: 03-3822-5036

FAX: 03-3823-6830

弊社IRサイトもご覧ください <http://ir.kumiai-chem.co.jp/>